

南国の体育会系主任者



この人：宮崎大学フロンティア科学実験総合センター 後藤稔男 氏

この人、こんな所

インタビュー担当：放射線取扱部会広報専門委員会
鈴木朗史（長瀬ランダウア(株)）

宮崎大学は、木花、清武の2つのキャンパスとも、JR 宮崎駅や宮崎空港から車で約 25 分とアクセスしやすいところにあり、両キャンパスを横断する共同教育研究施設の1つが宮崎大学フロンティア科学実験総合センターです。今回はこちらの実験支援部門 RI 分野 RI 清武分室で放射線管理をされている後藤稔男氏をご紹介します。

鈴木：フロンティア科学実験総合センターはどのような施設なのでしょう。

後藤：宮崎大学は昨年、教育文化学部の前身である宮崎県尋常師範学校設立から 130 周年、農学部の前身である宮崎高等農林学校設立から 90 周年、工学部の前身である宮崎県高等工業学校設立から 70 周年、医学部の前身である宮崎医科大学設置から 40 周年のそれぞれ節目を迎えましたが、フロンティア科学実験総合センターは 2003 年の大学統合の際に、先端的な生命科学研究推進とキャンパスを横断する教育研究支援を行うための総合センターとして設置されました。RI、遺伝子実験、動物実験、実験実習機器といった従来の共同利用施設は“実験支援部門”に属しています。

鈴木：では、管理を担当されている RI 清武分室の紹介をお願いします。



写真 1 宮崎大学清武キャンパス

後藤：当施設は宮崎医科大学（現在の宮崎大学清武キャンパス）の竣工と時を同じくして共同利用施設として発足し、大学統合で“フロンティア科学実験総合センター実験支援部門 RI 分野 RI 清武分室”へと改組されました（写真 1）。

RI 清武分室では非密封 34 核種をトレーサとして利用することができますが、現在使用されているのは ^3H 、 ^{32}P 、 ^{35}S 、 ^{125}I の 4 核種で、2000 年前後をピークに使用量や利用者は激減しています。それに対して大学の研究スペース不足は数年前から問題になっており、2012 年度には管理区域を縮小することになりました。しかし、使用量は減っても、生理活性ペプチドの探索や機能解明をはじめとする、本学の特色ある生命科学研究推進の基盤としての RI 施設の重

要性には変わりありません。このため、予算確保から工事完了まで、様々な方々の理解と配慮をいただき、単に管理区域を縮小するだけではなく、縮小後の管理区域内についても実験室の間取りや給排気設備の全面変更を含む大幅な改修工事を行い、コンパクトながらも使いやすい、次世代の実験手技にも対応できるようなりフォームを終えたところです（写真2）。

鈴木：時代に合わせた施設を造られたということですね。先生はいつ頃からこちらの仕事に携わられているのですか。

後藤：当施設はRIの使用許可を受け40年目、私自身は1992年に赴任して以来、放射線管理の実務一筋で24年目になります。実は赴任するまで、RI・放射線の基本的な知識はおろか、物理学、化学、生物学といった学問的バックグラウンドもなく、前任の主任者にゼロから学びつつ、主任者試験合格を目指しました。理系でも文系でもない体育会系の私には途方に暮れるほど高いハードルでしたが、高校、時には中学理科の参考書にも頼りながら勉強し、何とか1997年に主任者免状を取得できました。こんな私を長年根気強く指導していただいている上司と前主任者には感謝あるのみです。

鈴木：そうだったのですか。現在には何か苦心されている点がありますか。

後藤：放射線管理の実務は、線量評価や測定などの法規制に基づく業務はもちろん、施設や機器の維持管理などのほとんどを限られたスタッフで行わなければならない、単に知識があるだけでは難しいことも多いと思います。法令の運用も、経験が的確な判断を導くのではないのでしょうか。近年、当施設と医学部附属病院は、高いレベルの技能と豊富な経験を持つ主任者が異動、又は定年を迎えるという問題に直面しました。残された管理担当者が技能を向上させ経験をも積むことは、一朝一夕ではできません。そ



写真2 小屋のRC壁撤去で広い実験室を確保

こで、3人寄れば文殊の知恵ではありませんが、当施設と医学部附属病院、木花キャンパスの学内3事業所の管理担当者の連携を強化しました。事業所固有の問題であっても大学共通の問題と考え改善のアイデアを出し合い、例えば再教育訓練実施日に出席困難な従事者もオンデマンド受講できるようなシステムを構築したり、透視用X線装置の防護を見直し診療従事者の被ばく線量が低減したことなど、早速具体的な成果がありました。ほかの事業所の管理担当者との情報交換では多くのことに気付かされますし、今後更に多くの部署や職員にも協力してもらって問題意識を共有し連携することで、ひいては安全文化の確立に資するものと考えています。

情報交換といえば、私にとって年次大会や九州支部研修会などへ出席することは、放射線安全行政の動向を知ることはもちろん、視野を広げ、管理実務を見直し改善するための情報を得る貴重な機会になっています。同じ主任者や管理担当者である1人で、多様な専門分野の先生方が多数出席されることもユニークだと思います。昨年度より第28期九州支部委員を務めています、1人でも多くの管理担当の皆様研

主任者 コーナー

修会等へ出席していただき、ともに学び、ともに悩み考えるような、そんな活動をしたいと思っています。

鈴木：ありがとうございます。では今度は仕事から離れて、宮崎県の紹介をお願いいたします。

後藤：宮崎県の魅力は、簡単に表すと日向灘（太平洋）に面した穏やかな気候と豊かな土地、素朴で温かい人々です。私は福岡県の出身ですが、中学の修学旅行で訪れた時の抜けるような宮崎の空の色は、同じ九州でも驚くほど青く強烈な印象で、今でも鮮明に覚えています。両親の世代は新婚旅行といえは宮崎でしたし、気軽に海外に行けるようになった今でも、南国宮崎の魅力が色あせることはありません。特に、鬼の洗濯板と呼ばれる波状岩に囲まれた青島、太平洋を一望できる堀切峠（道の駅フェニックス）といった景勝地を中心とする日南海岸は、宮崎空港から車で20分程度でアクセスできますので、宮崎県に来られたら是非足をお運びいただきたいと思います（写真3）。

鈴木：宮崎大学も、宮崎空港や駅からアクセスしやすいところにありますね。

後藤：はい、清武、木花の両キャンパスとも空港や日南海岸からほど近い抜群の環境に立地していて、季節を問わず、早朝や休日にサーフィンを楽しむ職員もいます。野球やサッカーなど数多くのプロスポーツチームが毎年キャンプにやってきますし、温暖で1年中スポーツやレジャーを楽しめます。

鈴木：では趣味を教えてください。

後藤：私は金槌なのでサーフィンこそしないものの、草野球、釣り、ゴルフと広く浅くかかりましたが最近では全部休業して、今の一番の楽しみは4歳の息子と遊ぶことです。妻もフルタイムで働いているため育児に協力……というより、こんなに楽しいことを妻だけに任せるわけ



写真3 日南海岸

にはいかないというのが正直なところですが。特に寝かしつけは私の担当だと自負しています。眠い目をこすりながらも寝たがらない息子を布団に誘い、絵本を読んだり1日の出来事を教え合ったりしているうちに寝てしまった息子の顔を見ると、明日も頑張ろうという気持ちになります。最近では「大きくなったらパトロールする人（警察官?）になりたい」と言っていて、もし息子の夢が叶えば、地鶏をつまみに焼酎を傾けながら、公共の安全確保について意見交換ができるのではないかと密かに楽しみにしています。

鈴木：理想的な“イクメン”になられていますね。敬服いたします。

後藤：環境に恵まれているおかげだと感謝しています。本学は女性研究者支援と男女共同参画を強力に推進しているため、男性の育児参加にも非常に理解が深く、事業所内保育園への送り迎えでは研究者のお父さんと一緒になることもしばしばです。職住近接の宮崎県ではプライベートな時間も充実させることができると思います。豊かな自然、おおらかな風土と理解ある職場、これ以上ない恵まれた環境で、これからも実務経験を積んでいきたいと思っています。